

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス・児童発達支援 toughness			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日 ~ 令和8年 1月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日 ~ 令和8年 1月 20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 27日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動や外活動を通した成功体験の提供 運動プログラムやサッカー教室、外出活動など体を動かす経験を通して自己肯定感や社会性を育む支援を行なっている。	活動前の見通しを持たせるSSTの実施 見通しを持ったスケジュール管理と提示を徹底し、外出活動の場合は写真や具体例を用いてルールや注意点を確認することで児童の不安経験とトラブル予防に繋げている。	運動や外活動に不安な気持ちや苦手意識のあるお子様への段階的な参加方法をより明確にし、職員間で共有する。
2	子ども1人1人の特性に応じた個別性の高い支援 子どもの特性やその日の状態に応じて関わり方や活動内容を柔軟に調整し、安心して過ごせる支援を行なっている。	「できない理由」ではなく「できる方法」を考える関わり 子ども1人1人の特性やその日の状態を丁寧に把握し、「できる方法」を職員間で意識しながら声かけや支援の方法を柔軟に変えるよう意識している。	支援の意図や変化を記録や言語化することでさらに共有し、支援に質や再現性を高める。
3	子どもを尊重した関係作りと安心できる環境 対話や共感を大切にした関わりを行ない、失敗しても挑戦できる雰囲気作りができている。	安心して過ごせる人間関係作り 子どもの気持ちや特性を丁寧に受け止める関わりを基本とし、否定的な声かけを避け失敗しても前向きな挑戦ができる環境作りを職員全体で意識的に行なっている。	保護者からの情報共有も大切にし、職員間で関わり方の基準や共通認識を言葉で共有できるようにしている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族参加型のイベントの実施	日々の支援を優先する中でご家族が参加できる行事や交流の機会を十分に実施することができず、事業所の取り組みを直接共有する場が限られていた。	無理にない規模や時期を検討しながら、日常活動を活かした参観やミニイベントなどを計画し、ご家族が子どもの様子を共有できる機会を段階的に設けていく。
2	地域との関わりの機会	公園や外出活動は行なっているものの地域との継続的な交流や連携の機会が少なく、日常支援の範囲に留まった活動が中心となっていた。	地域行事や関係機関との情報収集を行ない、地域との繋がりを意識した活動や交流の機会を少しずつ広げていく。
3	お子様の苦手意識のある活動に対する支援の質	個別対応を重視する一方で段階的な支援方法や職員間での共通認識の整理が不足していたことで支援方法の共有が十分にできないことがあった。	苦手な活動について、小さな成功体験を積める段階的な支援方法を整理し、職員間で共有することで安心して取り組める支援体制を整えていく。